

1:25,000活断層図

会津盆地西縁・東縁断層帯とその周辺

喜多方市

「田島」解説書

西会津町

会津坂下町

磐梯町

猪苗代町

柳津町

立石 良
(富山大学)

会津若松市

会津美里町

令和5年9月

田 島

下郷町

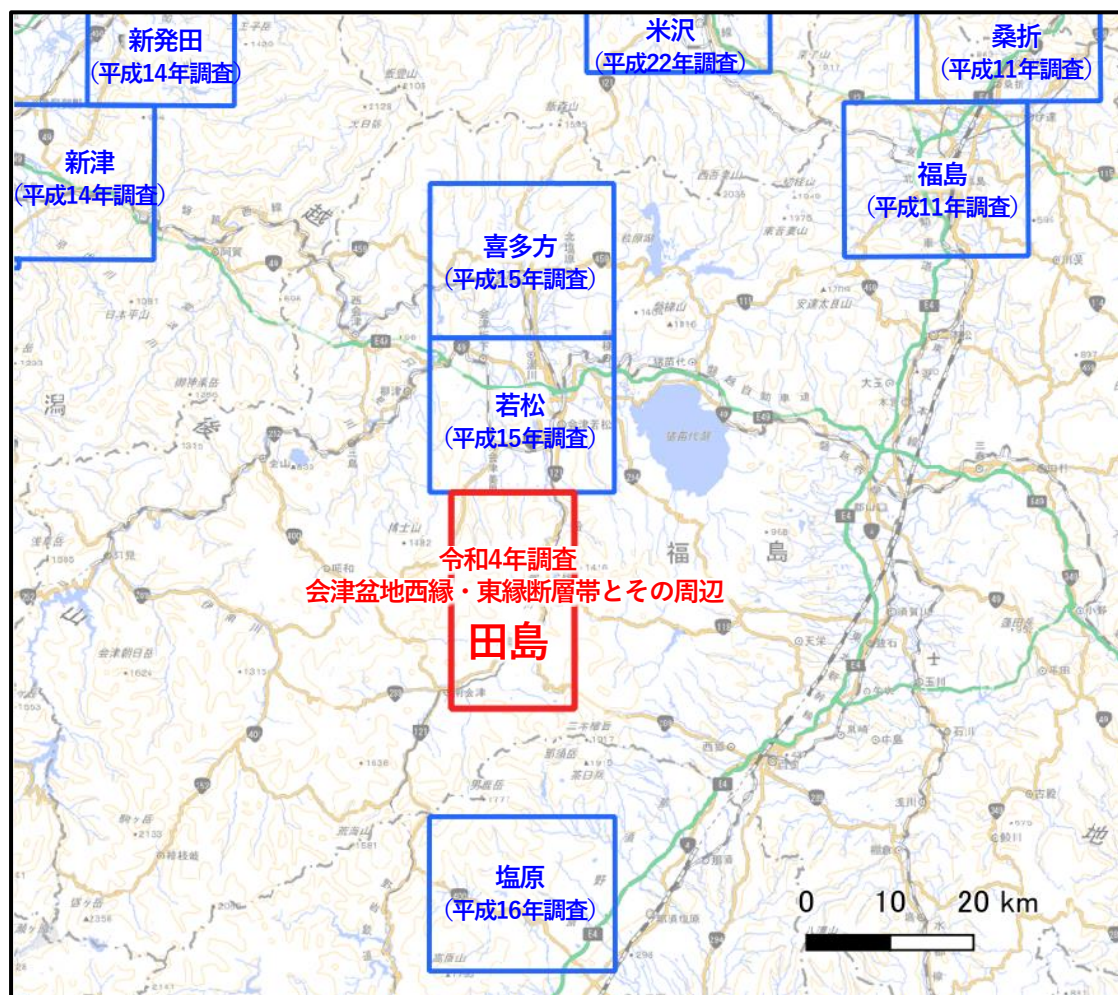
南会津町

編集 国土地理院

目 次

1:25,000 活断層図 会津盆地西縁・東縁断層帯とその周辺「田島」解説書

1. 会津盆地東縁断層帯	2
2. 大内－倉村断層	3
3. 会津下郷断層	4
4. 音金断層	5
引用文献	5
使用空中写真，使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等	7
付図（断層索引図）	9



 令和4年調査図郭
 令和3年以前の調査図郭

1:25,000 活断層図「田島」作成位置図

1:25,000活断層図 会津盆地西縁・東縁断層帯とその周辺「田島」解説書

会津盆地東縁断層帯は、耶麻郡北塩原村から喜多方市、耶麻郡磐梯町、会津若松市を経て南会津郡下郷町に至る長さ約49 kmの断層帯である。ほぼ南北方向に延びており、断層の東側が西側に対して相対的に隆起する逆断層である（地震調査研究推進本部地震調査委員会，2008）。

本図には、会津盆地西縁・東縁断層帯を構成する会津盆地東縁断層、大内－倉村断層、会津下郷断層、音金断層が記載されている。以下に、各断層の概要と判読した根拠を記載する（下記の断層ごとの番号及び記号は、巻末の付図（断層索引図）に記載した番号及び記号に対応）。

1. 会津盆地東縁断層

- ・走向 ： 北東－南西
- ・長さ ： 約7 km
- ・断層種別 ： 活断層（一部縦ずれ、活撓曲、傾動）、推定活断層を含む
（※上記の各諸元については、本図内における計測及び確認結果である。）

（1）概要

会津盆地東縁断層は、1:25,000都市圏活断層図「喜多方」（今泉ほか，2004）図郭の北塩原村土合から会津若松市小谷西村付近を経由して大内峠の北東側まで、全体としてはほぼ南北方向に延びる活断層である。本図における会津盆地東縁断層は、1:25,000都市圏活断層図「若松」（宮内ほか，2004）図郭の会津若松市大戸町宮内付近（図郭南東端）から、阿賀野川を跨ぎ同市の山梨山北西側を経由して大内峠の北東側まで、北東－南西方向に延びる長さ約7 kmの活断層（推定活断層含む）である。地震調査研究推進本部（2008）では、本図で活断層とした区間（1a，1b）全域、および推定活断層とした区間（1c）の一部が活断層として示されている。また、今泉ほか編（2018）では、本図で活断層とした区間（1a，1b）が活断層として示されている。

（2）判読根拠

会津盆地東縁断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

- 1a：大戸町上雨屋では、沖積低地に南北方向の高度不連続が認められ、その東側に上位段丘面を西側に傾動させる落差20mの明瞭な逆向き断層崖が認められる。
- 1b：馬越では、下位段丘面を西側落ちに数m変位させる明瞭な撓曲崖が認められる。また、馬越南方から南の小谷西村川端北方までは南北方向に直線状の高度不連続が続き、川端から小谷までは、下位段丘面、沖積低地、扇状地・沖積錐の境界を北西側落ちに数m変位させる低断層崖が認められる。この低断層崖付近では、産業技術総合研究所（2007）によるトレンチ調査で完新世の堆積物が北西側に傾斜する様子が確認されている。また、このトレンチ調査位置を北西－南東方向に跨ぐ測線上のボーリング調査で

は、トレンチ中央部付近で低位段丘堆積物の上面が北西側に5m程度下がる事が確認されている。本図の低断層崖が南東傾斜の逆断層により形成されたと見なせば、トレンチ調査やボーリング調査で見つかった構造と矛盾しない。この低断層崖の南東には、下位段丘面を北西側落ちに数m変位させる明瞭な低断層崖が認められる。

1c： 1bの南西延長から山梨山の北西側を経て大内峠の北東側まで、複数の鞍部を通り北東－南西方向に延びる高度不連続が認められる。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）では、この区間の一部を活断層としているが、今回の調査では、この高度不連続の一連のつながりを推定活断層とし、1bの端部から連続することから会津盆地東縁断層帯の一部に含めた。

2. 大内－倉村断層

- ・ 走向 : 北北東－南南西
- ・ 長さ : 約9 km
- ・ 断層種別 : 活断層（一部縦ずれ）、推定活断層含む

（1）概要

大内－倉村断層は、会津若松市と下郷町の境にある大内峠付近から小野岳西麓、同町中山付近を経由して同町の八幡峠付近まで北北東－南南西方向に延びる活断層（推定活断層含む）である。本図には、今回の調査で確認された下郷町大内付近から同町の八幡峠付近までの長さ約9 kmの区間が表示されている。そのうち、下郷町桜山から同町の中山峠までの長さ約1 kmが新たに活断層として認定された。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）では、本図の2a、2cおよび2bの一部とほぼ同じ区間に活断層が示されている。今泉ほか編（2018）では、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）とほぼ同じ区間が推定活断層として示されている。

（2）判読根拠

大内－倉村断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

2a： 下郷町大内から沼山では、小野岳西麓の扇状地面と、扇状地面と下位段丘面の境界に高度不連続が認められる。この背後の山中を流れる小野岳に沿った中位段丘面は谷底から約100mの高さに分布し、中位段丘面形成以降の隆起を示唆する。

2b： 下郷町桜山から下郷町中山峠までは、東側の山地の西縁の扇状地面上に南北方向の高度不連続が認められることから、この区間を新たに活断層として認定した。中山峠から下郷町水抜までは、下位段丘面と扇状地面の境界を西側落ちに数m変位させる明瞭な低断層崖が断続的に認められ、その背後には細長い残丘状の高まりが分布する。

2c：下郷町板倉から八幡峠までは、東側の山地の西縁に沿って高度不連続が認められる。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）および今泉ほか編（2018）では、西側の山地の東縁に沿って活断層ないし推定活断層が示されているが、今回の調査では、東側の山地西縁の高度不連続を断層変位地形の可能性ありと判断し、推定活断層とした。

3. 会津下郷断層^{あいづしもごう}

- ・走向　　：　北東－南西
- ・長さ　　：　約6 km
- ・断層種別　：　活断層（一部に縦ずれ、活撓曲、活褶曲を含む）

（1）概要

下郷町^{しおのう}塩生付近から南会津町の加藤谷川^{かとうだにがわ}左岸まで、北東－南西方向に延びる長さ約6 kmの一部に縦ずれの変位、活撓曲、活褶曲を伴う活断層である。地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）及び今泉ほか編（2018）では、本図の3a、3b区間から加藤谷川右岸に活断層が示されているが、本図では3bの西方延長を加藤谷川の左岸とした。なお、地震調査研究推進本部地震調査委員会（2008）では、本断層の名称を下郷付近の断層としているが、他に類似する名称の断層（下郷断層）が存在することから、地域名を加えて会津下郷断層と新称した。

（2）判読根拠

会津下郷断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

3a：下郷町塩生では、岩屑なだれ堆積面及び下位段丘面を北西側落ちに数m変位させる明瞭な低断層崖及び撓曲崖が認められる。

3b：下郷町田頭から下郷町落合では、中位段丘面と下位段丘面の境界に、北西側落ちの高度不連続が認められる。この高度不連続の南東側では、中位段丘面の背斜状の変形が断続的に認められる。落合の北東方では、背斜状に変形した中位段丘面の背後に南東側落ちの逆向き低断層崖が認められる。

3c：落合から加藤谷川左岸では、下位段丘面を北西側落ちに数m変位させる撓曲崖が断続的に認められる。今回の調査ではこれを3bから続く一連の構造と見なし、会津下郷断層の一部とした。

4. ^{おとかね}音金断層

- ・走向 : ほぼ南北
- ・長さ : 約4 km
- ・断層種別 : 活断層 (活撓曲を含む)

(1) 概要

下郷町原^{はら}から同町上ノ坪^{かみのつぼ}まで、ほぼ南北方向に延びる長さ約4 km、3条の活断層で一部に活撓曲を伴っている。水本ほか(2011)では加藤谷川北方に延びる推定部を含めて長さ約9 kmとしているが、本図では長さ約4 kmの範囲を活断層と認定した。

(2) 判読根拠

音金断層の主な地点ごとの判読根拠は、次のとおりである。

4a: 下郷町原では、岩屑なだれ堆積面上に、南北方向に延びる高度不連続が認められる。その南方延長の、観音川を跨いだ下郷町杉ノ沢から加藤谷川右岸の丘陵では、扇状地面及び上位段丘面を分断する高度不連続が認められ、さらに南方の加藤谷川右岸では、下位段丘面を西側落ちに約3m変位させる撓曲崖が認められる。この活断層線を挟んだ上位段丘面の高度差は約8mである。

4b: 加藤谷川右岸から加藤谷川までは、下位段丘面上に、南北方向に延びる西側落ちの高度不連続が認められる。その南方延長の、加藤谷川を跨いだ下郷町上ノ坪では、下位段丘面、及び下位段丘面と沖積低地の境界を西側落ちに数m変位させる撓曲崖が連続的に認められる。4a、4bとも、下位段丘面を変形させる撓曲崖が認められること、変位の累積性が認められること、これに関連すると思われる構造が連続することから、活断層と判断した。

(富山大学准教授 立石 良)

引用文献

今泉俊文・後藤秀昭・平川一臣・宮内崇裕(2004): 1:25,000都市圏活断層図「喜多方」, 国土地理院。

今泉俊文・宮内崇裕・堤 浩之・中田 高編(2018): 「活断層詳細デジタルマップ [新編]」。東京大学出版会, 154p+USB メモリ。

地震調査研究推進本部地震調査委員会(2008): 会津盆地西縁・東縁断層帯の評価(一部改訂), 34 p.

https://www.jishin.go.jp/main/chousa/katsudansou_pdf/24_aizu-bonchi_2.pdf

(2023年9月20日) 閲覧)

水本匡起・田力正好・松田時彦・吾妻 崇・堤 浩之・今泉俊文・池田安隆・宮内崇裕・松浦

- 律子（2011）：会津盆地東縁断層帯南部における新たな断層変位地形の認定，日本地球惑星科学連合2011年大会予稿集，SSS032-P09.
- 宮内崇裕・今泉俊文・越後智雄・後藤秀昭・澤 祥・八木浩司（2004）： 1:25,000都市圏活断層図「若松」,国土地理院.
- 産業技術総合研究所（2007）会津盆地西縁・東縁断層帯の活動性および活動履歴調査，「基盤的調査観測対象断層帯の追加・補完調査」成果報告書 No.H18-3，43p.

使用空中写真、使用航空レーザ測量データ及び検討委員会等

1) 使用空中写真

撮影計画機関（種別）	撮影縮尺	地区番号又はコース番号
米軍（モノクロ）	1/40,000	M11-2-2, M627, M640, M640-No2, M788
国土地理院（カラー）	1/10,000	CTO7626, CTO7627
国土地理院（モノクロ）	1/20,000	MTO689X
林野庁（モノクロ）	1/20,000	山346

2) 使用航空レーザ測量データ

国土地理院が管理する航空レーザ測量データから1mDEMを作成して使用.

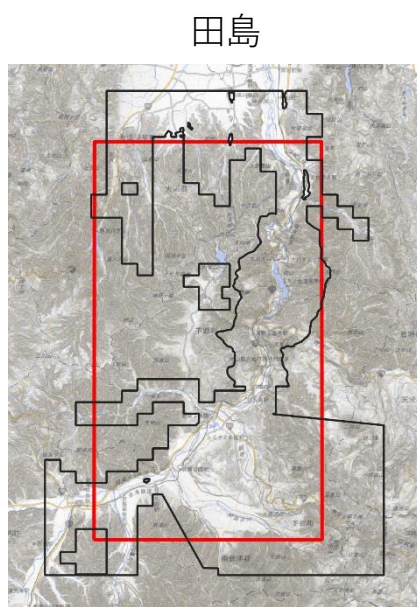


図1 航空レーザ測量データ使用範囲（黒線包囲部分）.

なお、黒線包囲部分以外は「基盤地図情報数値標高モデル（5mDEMないし10mDEM）」を使用した。

3) 全国活断層帯情報整備検討委員会

a. 委員会等の開催

第1回委員会	令和4年8月22日(月) Web会議
第1回全体部会（クロスチェック）	令和4年9月12日(月) イオンコンパス 東京八重洲会議室
地域部会（クロスチェック）	令和4年11月23日(水,祝) イオンコンパス 東京八重洲会議室
第2回全体部会（クロスチェック）	令和4年12月12日(月) Web会議
第2回委員会	令和4年12月19日(月) Web会議

b. 会津盆地西縁・東縁断層帯とその周辺「田島」の作成委員（令和4年度）

図 名	氏 名	所 属
田島	○ 立石 良	富山大学准教授
	石村 大輔	東京都立大学助教
	岡田 真介	岩手大学准教授
	堤 浩之	同志社大学教授

○印は、全体のとりのまとめを担当した委員，その他の委員は五十音順

4) 連絡先

国土地理院応用地理部地理情報処理課

〒305－0811 茨城県つくば市北郷1番

電話：029（864）1111（代表）

5) 引用する場合の記載例

a. 図を引用する場合

立石 良・石村大輔・岡田真介・堤 浩之（2023）：1:25,000活断層図「田島」．国土地理院．

b. 解説書を引用する場合

立石 良（2023）：1:25,000活断層図 会津盆地西縁・東縁断層帯とその周辺「田島」解説書．国土地理院，9p．

【 付図（断層索引図）】

